

入門講義 補助問題

補助問題 1

【現金の範囲等】

次の【資料】に基づき，【資料Ⅲ】決算整理後残高試算表の空欄の金額を算定しなさい。

【資料Ⅰ】 決算整理前残高試算表（一部）

決算整理前残高試算表				(単位：円)
現	金	538,000		
当	座	預	金	860,000
租	税	公	課	6,000

【資料Ⅱ】 決算整理事項等

1. 決算日において金庫の中を調べたところ以下のものが保管されていた。(単位：円)

- ① 紙 幣 ・ 硬 貨 487,694
- ② 収 入 印 紙 1,000(注)
- ③ 他 社 振 出 小 切 手 50,000
- ④ 自 己 振 出 小 切 手 10,000

(注) 収入印紙は購入時に租税公課勘定で処理している。

2. 現金の帳簿残高と実際有高の差額の原因は不明である。

【資料Ⅲ】 決算整理後残高試算表（一部）

決算整理後残高試算表				(単位：円)
現	金	(①)		
当	座	預	金	860,000
貯	蔵	品	(②)	
租	税	公	課	(③)
雑		損	(④)	

補助問題 1

【解 答】

① 537, 694 ② 1, 000 ③ 5, 000 ④ 306

【解 説】

○ 決算整理仕訳

(1) 収入印紙

(借) 貯	蔵	品	1, 000	(貸) 租	税	公	課	1, 000
-------	---	---	--------	-------	---	---	---	--------

(2) 雑損失の計上

(借) 雑	損	失	306	(貸) 現	金	306 (*1)
-------	---	---	-----	-------	---	----------

(*1) 帳簿残高538, 000－実際有高537, 694(*2) = 306

(*2) 紙幣・硬貨487, 694＋他社振出小切手50, 000 = 537, 694

補助問題 2

【商品有高帳（払出単価の計算方法）】

当月における A 品の仕入れ及び売上げは次のとおりであった。払出単価の計算について、先入先出法と移動平均法のどちらの方法で行った場合の方が売上総利益が大きくなりますか？

5/ 1	前月繰越	5個	@200円
5/ 7	仕 入	15個	@240円
5/19	売 上	10個	@450円（売価）
5/22	仕 入	10個	@200円
5/28	売 上	14個	@460円（売価）

補助問題 2

【解 答】

移動平均法

【解 説】

いずれの計算方法においても売上高は同じなので

売上総利益が大きい $\Rightarrow$ 売上原価が小さい

いずれの計算方法においても月初商品棚卸高・当月商品仕入高は同じなので

売上原価が小さい $\Rightarrow$ 月末商品棚卸高が大きい

つまり、月末商品棚卸高の大小を考えればよい

① 先入先出法

月末数量 $= 5 + 15 - 10 + 10 - 14 = 6$ 個 $<$ 5/22 仕入10個

$\therefore$ 月末商品はすべて単価@200円

② 移動平均法

5/ 7仕入後単価 $(5 \times 200 + 15 \times 240) \div (5 + 15) = @230$

5/19売上後数量 $5 + 15 - 10 = 10$ 個

5/22仕入後単価 $(10 \times 230 + 10 \times 200) \div (10 + 10) = @215$

$\therefore$ 月末商品の単価は@215円

以上より、移動平均法の方が売上総利益は大きくなる。

なお、この問題はテキストP060 例題10をもとに作成しているため、商品有高帳についてはテキストを参照してください。

補助問題 3

【商品売買】

次の〔資料〕に基づき、〔資料Ⅰ〕決算整理前残高試算表の空欄①の金額を算定しなさい

〔資料Ⅰ〕 決算整理前残高試算表（一部）

決算整理前残高試算表					(単位：円)	
繰越商品	(①)	売上			26,000	
仕入	11,400					

〔資料Ⅱ〕 決算整理後残高試算表（一部）

決算整理後残高試算表					(単位：円)	
繰越商品	100	売上			26,000	
仕入	(?)					

〔資料Ⅲ〕 解答にあたって必要な情報

当期の売上総利益は14,500円であった。

補助問題 3

【解 答】

200

【解 説】

○ 決算整理仕訳

(1) 売上原価の算定

(借) 仕 入	200	(貸) 繰 越 商 品	200(*1)
(借) 繰 越 商 品	100	(貸) 仕 入	100

(*1) 下記仕入勘定の分析 ☆

仕 入	
前T/B 残高	11,400
繰越商品	100
繰越商品	$\therefore$ 200 ☆
後T/B残高	11,500(*2)

(*2) 売上26,000－売上総利益14,500＝売上原価11,500

補助問題 4

【貸倒引当金】

次の〔資料〕に基づき、〔資料Ⅲ〕決算整理後残高試算表の空欄の金額を算定しなさい。

〔資料Ⅰ〕 決算整理前残高試算表（一部）

決算整理前残高試算表				(単位：円)
受 取 手 形	50,000	貸 倒 引 当 金	9,000	
売 掛 金	150,000			
貸 倒 損 失	10,000			

〔資料Ⅱ〕 決算整理事項等

1. 〔資料Ⅰ〕の貸倒損失の内訳は、前期発生売掛金に対するもの 7,000円及び当期発生売掛金に対するもの 3,000円である。
2. 売上債権期末残高に対し実績率 3 % の貸倒引当金を差額補充法により設定する。

〔資料Ⅲ〕 決算整理後残高試算表（一部）

決算整理後残高試算表				(単位：円)
受 取 手 形	50,000	貸 倒 引 当 金	(③)	
売 掛 金	150,000			
貸 倒 損 失	(①)			
貸倒引当金繰入額	(②)			

補助問題 4

【解 答】

- ① 3,000 ② 4,000 ③ 6,000

【解 説】

○ 決算整理仕訳

(1) 前期発生売掛金 7,000に係る訂正仕訳

① 期中に実際行われた仕訳

(借) 貸 倒 損 失	7,000	(貸) 売 掛 金	7,000
-------------	-------	-----------	-------

② あるべき仕訳

(借) 貸 倒 引 当 金	7,000	(貸) 売 掛 金	7,000
---------------	-------	-----------	-------

③ 修正仕訳

(借) 貸 倒 引 当 金	7,000	(貸) 貸 倒 損 失	7,000
---------------	-------	-------------	-------

(2) 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入額	4,000	(貸) 貸 倒 引 当 金	4,000(*1)
--------------	-------	---------------	-----------

(*1) (受取手形50,000 + 売掛金150,000) × 3% - 2,000(*2) = 4,000

(*2) 前T/B9,000 - 訂正仕訳7,000 = 2,000

補助問題 5

【有形固定資産】

次の〔資料〕に基づき、〔資料Ⅳ〕決算整理後残高試算表の空欄の金額を算定しなさい。なお、当期は×4年4月1日から×5年3月31日である。

〔資料Ⅰ〕 決算整理前残高試算表（一部）

決算整理前残高試算表			
		×5年3月31日	(単位：円)
機 械	180,000	機械減価償却累計額	72,000
備 品	200,000	備品減価償却累計額	87,500
備品減価償却費	()	備品売却益	()

〔資料Ⅱ〕 期中取引等

- ×4年11月30日に備品の一部（取得原価50,000円，期首減価償却累計額12,500円）を38,000円で売却し，代金が当座に振り込まれた。
- ×5年1月28日に機械の一部（取得原価80,000円，期首減価償却累計額54,000円）を6,000円で売却し，代金が当座に振り込まれたが未処理である。

〔資料Ⅲ〕 決算整理事項

- 減価償却は定額法により行っている。耐用年数等は以下のとおりである。
 - 機 械 耐用年数5年 残存価額：取得原価の10%
 - 備 品 耐用年数6年 残存価額：取得原価の10%

〔資料Ⅳ〕 決算整理後残高試算表（一部）

決算整理後残高試算表			
		×5年3月31日	(単位：円)
機 械	(①)	機械減価償却累計額	(⑥)
備 品	(②)	備品減価償却累計額	(⑦)
機械減価償却費	(③)	備品売却益	(⑧)
備品減価償却費	(④)		
機械売却損	(⑤)		

補助問題 5

【解 答】

- ① 100,000 ② 200,000 ③ 30,000 ④ 35,000
 ⑤ 8,000 ⑥ 36,000 ⑦ 117,500 ⑧ 5,500

【解 説】

○ 決算整理仕訳

(1) 備 品

① 売 却 (処理済) ←すでに前T/Bに反映済み

(借) 備品減価償却累計額	12,500	(貸) 備 品	50,000
備 品 減 価 償 却 費	5,000(*1)	備 品 売 却 益	5,500
当 座 預 金	38,000		

$$(*1) 50,000 \times 0.9 \div 6 \text{年} \times \frac{8 \text{ヶ月} (\times 4.4 \sim \times 4.11)}{12 \text{ヶ月}} = 5,000$$

◎ 前T/B 備品減価償却費 : 5,000

備 品 売 却 益 : 5,500

② 減価償却

(借) 備 品 減 価 償 却 費	30,000(*2)	(貸) 備品減価償却累計額	30,000
-------------------	------------	---------------	--------

(*2) 前T/B 備品 $200,000 \times 0.9 \div 6 \text{年} = 30,000$

☆ 備品の売却は期中処理済みであるため、前T/Bの備品・備品減価償却累計額の金額には売却した分は含まれていない。

(2) 機 械

① 売 却 (未処理)

(借) 機械減価償却累計額	54,000	(貸) 機 械	80,000
機 械 減 価 償 却 費	12,000(*1)		
当 座 預 金	6,000		
機 械 売 却 損	8,000		

$$(*1) 80,000 \times 0.9 \div 5 \text{年} \times \frac{10 \text{ヶ月} (\times 4.4 \sim \times 5.1)}{12 \text{ヶ月}} = 12,000$$

② 減価償却

(借) 機 械 減 価 償 却 費	18,000(*2)	(貸) 機械減価償却累計額	18,000
-------------------	------------	---------------	--------

(*2) (前T/B 機械 $180,000 - \text{売却分} 80,000) \times 0.9 \div 5 \text{年} = 18,000$

☆ 機械の売却は未処理であるため、前T/Bの機械・機械減価償却累計額の金額には、売却した分が含まれたままになっている。